



株式会社ユーロギア ダイネーゼ&AGV ジャパン事業部
東京都中央区東日本橋 2-12-4
Tel. 03.5829.8027 Fax 03.5829.8028
www.dainesejapan.com
2017年1月26日 プレスリリース

ダイネーゼの革新的な宇宙服、バイオスーツ

国際宇宙ステーション、2016年12月29日——デンマーク人宇宙飛行士のアンドレア・モーゲンセンがスキンスーツを初めてテストした2015年9月のIRISSミッションに続き、ダイネーゼは11月17日からプロキシマミッションに臨んでいるトマ・ペスケを守るべく、宇宙へと戻ってきました。

欧州宇宙機関 (ESA) とダイネーゼのサイエンス・アンド・リサーチセンターの提携による成果であり、国際宇宙ステーション内で着用されるために開発されたスキンスーツは、頭部から足の方向に「荷重」を与え、無重力環境においても地球上の重力の重みをリアルに再現します。スキンスーツは宇宙空間で背骨が伸びてしまうのを防ぐのを目的としており、着心地や動きやすさを損なうことなく垂直方向に大きな負荷を与えます。スキンスーツはダイネーゼにより体型に完璧にフィットするよう製作され、そのため宇宙飛行士の身体の150力所以上を採寸する必要があります。

ダイナミックなスポーツにおいて人間を護ることを常々その使命としてきたダイネーゼは、人間の保護における革新的ソリューションを研究する取り組みをより強め、自然、アート、そして科学の関係が進化する可能性を探求することにより、絶えず未来に目を向けています。

実際に、ダイネーゼは最近、シンポジウム「ガリレオから火星まで: アートサイエンスのルネサンス」において SACI (スタディオ・アート・センター・インターナショナル) を支援しました。イタリアのフィレンツェで11月12日に開催されたこの限定イベントには、NASA 副局長のダバ・ニューマン、NASA の宇宙飛行士やエンジニア、そしてアーティストのニコール・ストット、イタリア人宇宙飛行士のパオロ・ネスポリ、建築家でデザイナーのギレルモ・トロッチェ、アーティストで教授のリア・ハロランなどの著名なゲストが参加しました。ダイネーゼは自社の宇宙服であるスキンスーツとバイオスーツ2点を展示しました。バイオスーツについて説明すると、これは2030年頃と予測されている人類初の火星旅行用の宇宙服で、「伸びないライン」というコンセプトにより、宇宙飛行士の身体に必要な機械的圧力を、動きを妨げることなく加えることを可能にするものです。



株式会社ユーロギア ダイネーゼ&AGV ジャパン事業部
東京都中央区東日本橋 2-12-4
Tel. 03.5829.8027 Fax 03.5829.8028
www.dainesejapan.com

ダイネーゼのデザインアプローチは、常に自然とその構造からインスピレーションを得ており、デザイン、エンジニアリング、そして科学が交差するところに革新があるという重要性を認識し、有効性、重量、エルゴノミクスとの理想的なバランスを追求しています。このアプローチの成果である最新のテクノロジーに D-air®と呼ばれるものがあります。今日、スポーツにおいて人間を保護しているこのウェアラブルなエアバッグが、火星へと向かう将来のモビリティのために準備されようとしているのです。

ダイネーゼの宇宙プロジェクトに関する全コンテンツを、次のリンクでご覧頂けます。

<http://media.DAINESE.com>

お問い合わせ先

株式会社ユーロギア ダイネーゼ&AGV ジャパン事業部 担当：勝川

東京都中央区東日本橋 2-12-4

Tel. 03.5829.8027 FAX 03.5829.8028